

平成 20 年度伊丹市
2 分の 1 成人式
発表児童名と作文

発表順	学 校 名	氏 名
1	伊丹小学校	柴原 誠 <small>しばはら まさし</small>
2	稲野小学校	荒木 萌 <small>あらかき もえ</small>
3	南 小学校	沖村 茉美 <small>おきむら まみ</small>
4	神津小学校	瀧本 生 <small>たきもと しょう</small>
5	緑丘小学校	岡本 敏明 <small>おかもと としあき</small>
6	桜台小学校	森川 菜月 <small>もりかわ なつき</small>
7	天神川小学校	中嶋 星乃 <small>なかじま ほしの</small>
8	笹原小学校	尾崎 七柚良 <small>おざき なゆら</small>
9	瑞穂小学校	中島 黎華 <small>なかしま れいか</small>
10	有岡小学校	伊集院 彩子 <small>いじゅういん あやこ</small>
11	花里小学校	衣笠 晃輔 <small>きぬがさ こうすけ</small>
12	昆陽里小学校	山口 皓平 <small>やまくち こうへい</small>
13	摂陽小学校	金城 風香 <small>かねしろ ふうか</small>
14	鈴原小学校	平岩 陽向 <small>ひらいわ ひゆうが</small>
15	荻野小学校	奥山 矩充 <small>おくやま のりみつ</small>
16	池尻小学校	上熊須 理絵 <small>うえくます りえ</small>
17	鴻池小学校	宮川 由夏 <small>みやがわ ゆか</small>

秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ

わが衣手は 露にぬれつつ

この百人一首の歌のように、ぼくも田んぼに小屋を建てて、お米の見張り番をしてみたい -
これが、ぼくが農業をしたいと思ったきっかけです。

毎年ぼくは、祖母が生まれ育った、三重県伊賀市の家に連れて行ってもらいます。5月の連休には、ウグイスの声が聞こえる中、隣の家のおじさんが田植えをされていて、ぼくもお手伝いをしたり、祖父とオタマジャクシやザリガニを捕まえたりします。

夏の青々とした田んぼを渡る風は本当に涼しく、蛙が大合唱する夜は、星空がとてもきれいです。いつかは、隣のおじさんのくださったスイカに、狸のひっかいた跡がついていて、びっくりしました。

そして秋。金色の稲穂、黄緑の土手に真っ赤な彼岸花と、まるでパレットのよう。何と云っても、おじさんがくださる新米は、最高のお土産です。ぼくも、豊かな自然の中で自分でお米や野菜を作り、おいしく食べてみたいと思うようになりました。

以前は外科医、電車やバスの運転士にあこがれていました。人の命を預かる責任が重いとあきらめたのですが、考えてみれば、農家は人の口に入る食べ物を作るのですから、もっと気を遣う職業です。ニュースで、産地偽装や毒物混入という言葉を聞く度に、食の安全に関わる農業は、命に直接つながる大切な仕事だと思ふ気持ちが強くなります。

農家は自然災害、最近盗難からも作物を守り、大切に育てます。残念ながら、決して安全・安心とは言えない社会の中で、ぼくたち子どもも、両親や先生、周りの大人に守られて成長してきました。感謝の気持ちを忘れず、いつか自分の夢をかなえて、社会に貢献できるように、よく学び、よく遊び、よく食べて、大きくなっていきたいと思います。

「ええ・・・、親子が仲良く天神様のお祭りにやってまいりまして・・・。」

私の将来の夢は、落語家になることです。

ある日、お母さんが「ちりとてちん」というドラマを見ていました。それは、ある女の人が女流落語家としてがんばっていく話でした。お母さんは「ドラマがおもしろい」という感覚で見えていましたが、私は「落語ってとってもおもしろそうだな・・・」と思っていました。

ドラマは、最終回をむかえ、終わりました。そのあと、お母さんにたのんで落語教室をさがしてもらいました。見つかるまでに、お父さんに、星新一さんが作った創作落語のカセットテープやCDつきの落語の本などをもらいました。でも、カセットテープやCDでは、しぐさをどんなふうに行っているのかが全然わかりませんでした。

そして、やっと落語教室がみつかりました。林家染左先生などが教えてくださる宝塚の落語教室でした。

生徒は全部で9人で、そばやうどんを食べる時のしぐさや音の出し方など、いろんなことを教えてもらいました。練習をして、発表会などでもだんだんうまくなってきました。

今は、生徒も12人にふえて、前にならったのよりもむずかしいそろばんの音の出し方などを習っています。私は「初天神」という落語を、ほかの人は「じゅげむ」や「時うどん」という落語を練習をしています。

私は、落語をやり始めるきっかけになった「ちりとてちん」、落語教室をさがしてくれたお母さん、落語を教えてくださる林家染左先生たち、落語教室に行かせてくれているお父さんにとっても感謝しています。本当に本当にありがとうございます。

落語は、ぜったいに続けていこうと思います。そして、いつかきっと落語家になって、高座に上がりたいと思います。

「では、おあとがよろしいようで・・・。」

私は、困ったときは、いつも、お母さんに相談にのってもらいます。お母さんは、私が学校で遊んでいてケガをした時も、

「大じょう夫。」

と言って、手当をしてくれます。

私の朝ごはんも作ってくれるし、宿題でわからないところがあったら教えてくれます。私のことをいろいろ心配してくれたり、世話をしてくれます。私は、そんなお母さんが大好きです。

私のお母さんは、今、パン屋さんで働いています。私が、

「どうしてパン屋さんで働こうと思ったの。」

と聞くと、お母さんは、

「子どものためだよ。」

と言っていました。私は、それを聞いた時なんだか悲しくなりました。お母さんにもきっとステキな夢があったにちがいない、なのに、私のせいであきらめちゃったんだと思ったからです。その時は悲しかったけど、今考えると、お母さんへの感しゃの気持ちでいっぱいになります。

私の将来の夢は、デザイナーです。デザイナーの夢をかなえるには、きっと、いろいろなことがあると思います。その夢がかなうよう一生懸命努力しようと思っています。

もしかしたら、夢がかなわないかもしれませんが、でも、デザイナーの夢はかなわなくても、私はお母さんのようにやさしくて、人からそんけいされる人になりたいと思っています。

今までの自分はいつもケンカばかりでした。意地を張って自分の気持ちをすなおに出せていませんでした。そこでお世話になったのは友だちです。友だちはゆっくり、後から私の気持ちを聞いてみんなに言ってくれます。私はこうしてもらわないとすなおになれません。私のことを考えてくれているのでうれしいです。これからは友だちに優しくしていきたいです。いろんな人に優しくしたら、みんなが笑顔でいれるし、気持ちよくすごせると思います。そんな日を一日でも多くしたいと思っています。

お世話になった人は他にもいます。それは家族です。お母さんはいつも大変だけど、毎日ご飯を作ってくれて、お世話になっています。私のために仕事をしてくれて生きてくれました。お母さんに「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。

今まで育ててくれた人にありがとうの気持ちと自分ができなかったところを考えて、言葉づかいを正しくしたり、思いやりを持ったりして、人の気持ちのわかる正しい大人になりたいです。そんな大人になるために、ちょっとずつ今から自分の直さないといけない所を一生けん命さがして一つずつ直していきたいと思っています。なので気をつけて、努力していきたいと思っています。

私のゆめは動物園のし育員になることです。そのゆめに向かって、あきらめずにいろんな勉強をして一步でもゆめに近づけるように必死でがんばります。時には心がおれてしまう時もあるかもしれないけど、その時はあきらめないようにがんばりたいです。

これまでお世話になった人、育ててくれた人、ありがとうございました。

ぼくのゆめは、みんなに信らいされるサッカー - 選手になることです。そのために、パスやドリブルの練習を毎日しています。練習で、コーチに「パスがずれている」とか「シュートがわくに入っていない」とよくおこられます。

「そんなかん単にできないよ」と言いたくなります。言われたらはらがたつけど、サッカー - 選手になりたいので言うのをがまんしています。

夏の暑い時は、たおれそうになるぐらいつらくて、もうやめたいと思うこともあります。冬は、足が動かなくなるほど冷たくなって、スト - プの前で休みたいと思うときもあります。だけど、そんな時、「ゆめがかなえられなくなるぞ」と自分に言いかけます。

ぼくは、いつも試合に連れて行ってくれたり、おうえんに来てくれるお母さんとお父さんに「ありがとう」と言いたいです。くさいくつ下やユニフォームを洗たくしてくれたり、体が大きくなるように考えてごはんを作ってくれたりするお母さんや、スパイクやボールを買ってくれるお父さんがいないと、今も、これからもサッカー - ができなくなります。

毎日のようにサッカー - や学校のこと、きれたり、ガミガミ言われて、ちょっと言いかえしたくなる時もあるけど、こわいから聞いているふりをしています。でも本当は、感謝しなければいけないなと思っています。お母さんもお父さんもぼくのためにがんばってくれているのだから、ぼくもしっかり練習して、みんなに信らいされる選手になってお母さんやお父さんにぼくのいいプレイをいっぱい見せたいです。

いっしょに練習してくれる兄や妹、友達やコーチがいなかったら試合にも出れなくなってしまいます。いろんな人に支えてもらっているから思いっきりサッカー - ができています。家の手伝いをし、家族の気持ちがわかる人になります。サッカーでもなかまから安心してパスをしてもらえる選手をめざします。中村俊介選手や遠藤選手とやってみたいです。

私は今年 10 才になりました。私が 10 才になるまでをふりかえると、とってもたくさんのうれしさや、かなしみやいろんなことをのりこえてきました。その気持ちをのりこえてきたのは、きっと家族のおかげということが一番最初にうかびました。特にお母さんとお父さんでした。

私が落ちこんでいる時にすぐになぐさめてくれたのがお母さんでした。その時はとってもうれしかったです。お父さんは会社でお仕事をがんばってしてくれていたから、今までの 10 年間をすごしていけたと思います。

そして、もし働く仕事を選ぶなら、私は美ようしになって、たくさんの人のかみの毛を切っていきたいです。そして、その上を目指してカリスマ美ようしになりたいです。

私は、一番気になっていたことがあります。それは、私の小さかったころのことです。お母さんに聞いてみると、私を初めてだく時はきんちょうしてなかなか上手にだけなかったそうです。他には困ったことやうれしかったこと、びっくりしたこと、たくさんの思い出があったそうです。

そして、私が今 10 才になれたのも今、私がこの地球の一人でいることができているのも、私をずっとささえてくれた家族やいろんな人たちがいたからだと思います。そう思うととってもうれしい感じがしました。

そして、私はいつかは自分一人で生きていくことになるけれど、私はこうしてすてきな家族やささえてきてくれた人がいるからがんばれると思います。私の命は私が守っているだけではないことに気がつきました。

10才になって

私は、いろいろな人に支えられながら4年生になりました。おばあちゃん、おじいちゃん。おばあちゃん、いつも私のことを気にかけてくれています。おじいちゃん、雨がふりそうな時には、かぜをひくから早く帰りなさいと言ってくれます。

そんな中で、一番支えてくれたのは、やはりお母さんです。

私は、3才の時に交通事故でお父さんをなくしました。お母さんは一人で私と妹を育ててくれています。お母さんはすぐにおこります。それは私のために言ってくれているのです。でも、すぐに口ごたえをしてしまいます。悪いことをしているのはわかっているのに、口ごたえをしてしまいます。私は、なんでこんなことを言ったんだろうと思います。

お母さんがやさしいとき、私はうれしくてたまりません。ずっとやさしくしてほしいから、小さい子になろうとします。

私は、小さいときからアトピーです。小さいとき、お母さんとお父さんが私のために、いろいろな病院を回ったり、薬を探したりしてくれました。私はまだ小さかったので、その苦勞を知りませんでした。それを知ったとき、こんなに思ってくれていたなんて...と思い、うれしくなりました。

私の一つ目のゆめは薬ざいしです。そのことをお母さんに言ったとき、そうなのという顔をしましたが、私がじゅくに行きたいと言うと、なっとくしてじゅくに行かせてくれました。私はお金は大じょうぶなのかなと思いました。お母さんは何も言わなかったのですが、本当はお金がたくさんあるはずじゃないと私は思います。でも、そんな中、ピアノもじゅくも行かせてもらっていることを感しゃしています。

もう一つのゆめはパティシエです。私が2年生の時、私とおばあちゃんと妹とで、クリスマスケーキを作りました。その時、お母さんが「おいしい」と言ってくれました。はじめは、本当に私達を作ったんと思っていたみたいだったけど、お母さんの顔は「ありがとう」という顔で、いつも買ってるケーキを食べるときよりうれしそうに見えました。そのお母さんの顔を見て、お母さんの喜びそうなケーキを作りたいと思いました。お母さんに、私の作った手作りケーキを食べてほしいし、みんなにも食べてほしいです。

本当のところ、私はまだまだ、薬ざいしかパティシエかまよっています。ほかにもピアノの先生にもきょう味があります。これからも、私は、ゆめに向かってたくさん学んでいきたいです。

私は将来の夢に向かって努力したいと思います。努力をすると結果が実るし、「また、がんばろう」と思えるからです。だから何にでもチャレンジして、できないことは努力したいと思います。チャレンジすることで将来の夢にもつなげていきたいと思います。

私の夢はたくさんあります。獣医、看護師、まんが家などかなえたい夢がいっぱいあります。その中でも私が一番なりたいのは、獣医です。そう思うようになったきっかけは、私の大好きだった犬がガンで死んでしまったからです。もう年寄りだったので手術をしたら死んでしまうと言われました。その時、犬が弱っていくのを助けたいと思いました。私はたくさんの動物を助けてみんなを笑顔にしてあげたいと思います。そして「ありがとう。」と言われる獣医になりたいのです。

私の名前の由来を聞いてください。最初に親からもらうものは名前です。「七袖良」という名前にはたくさんの意味があります。その中でも「やさしく強く育てほしい」というのが一番心にひびきました。この名前は、お父さんとお母さんが悩んだり、相談したりしてつけてくれた名前です。私はこの名前にぴったりの人になりたいです。だから、友だちや困っている人にやさしくしていきたいと思っています。そして、何にも負けず強く生きていきたいです。私は自信を持って自分の道を進み、自分でしっかりと考えることができる大人になりたいのです。

私をうんでくれて、こんなに大きく育ててくれたお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな本当にありがとう。

私は今、10才です。一番お世話になったのは家族です。お母さんとお姉ちゃんと私で三人で仲よくくらしています。お母さんは、私とお姉ちゃんのために、一人でがんばってくれています。

私が、お母さんの鏡を割っても、すぐ

「けがは、ない？大じょうぶ？」

と、おこらず私のことを一番に心配してくれました。

お母さんのたん生日に、100円のハートのイヤリングをあげました。お姉ちゃんには、100円以内のおかしを買ってあげました。たった100円なのに、二人ともとっても喜んでくれました。

バレーボールでも、仕事が忙しくておなかが痛い時でも来てくれました。本気でおこられるけど、その分私はとってもバレーがうまくなりました。

2年生のころ、一つ年上の永野さくらちゃんが相棒になりました。いつもさくらと一緒に、「チビ二人！」

と呼ばれています。さくらは、私よりバレーは上手だし、強いし、みんなから尊敬されています。ですが、相棒でもいつもさくらをぬかしたいと思っています。そのくらい、強くてやさしいさくらが大好きです。

私の将来の夢は、バレーの選手です。かんとく、コーチ、みんなのお母さんが一生けん命教えてください。泣いてしまう時もありますが、上手になるために練習を続けます。

尊敬する選手は、オリンピックに出た竹下選手です。なぜかというと、チームをまとめる力があるからです。私の今のユニホームは4番だけど、さくらや竹下選手もぬかして、1番をもらってセンターのエースになりたいと思っています。もしなれなくても、バレーを続けていきたいと思っています。

私がここまで大きくなれたのは、みんなにたくさんのめいわくをかけたけれど、それを温かく見守ってくれた家族や友だちがいたからです。私を育ててくれたお母さん、お姉ちゃん、そして友だち、みんなありがとう。私は今幸せです。

私は、これまでに何回か熱を出したり、けがをしたことがあります。そんな時、お父さんやお母さんは、私にとっても優しくしてくれます。

「お茶飲みたい？」とか「まだしんどい？」

というように気にかけてくれます。私はそれが当たり前のように思っていました。でも、お母さんがしんどい時やつかれている時、私は何もしてあげられませんでした。

そして、それから一週間ぐらいたった時、学校の道とくの時間に先生が、

「世界にはまずしい人がたくさんいるんですよ。」

と言われました。その1時間は世界のことについて学びました。こんなに優しくしてもらえるのは当たり前ではなく、とても幸せなことなんだなぁと思いました。時々友達に

「伊集院さん、字がきれい〜。」と言われます。

そんな時「そうでしょう〜。」と自まんはしませんが、心の中では少しうれしいです。でも、字がきれいとはめられるのも、お父さんとお母さんが一生けん命働いてくれているお金で、お習字を習わせてもらっているおかげです。そういう事は感謝しなければならないと思います。

私は、将来獣医さんになりたいと思っています。元々、私は犬が大好きで、「犬を買って〜。」と言っても、お母さんは、「え〜！」と言って、なかなか買ってくれません。

だから、将来の仕事は犬に関する職業につきたいなと思っています。私のお母さんとおじいちゃんも、人を助ける歯医者さんや医者などの仕事なので、私も動物を助ける獣医になりたいなと思いました。

将来、こういう人になりたいなというのは、もう一つあります。私はお姉ちゃんとよくけんかをします。

そんな時、お父さんとお母さんが、「こらっ！ママ達は二人がけんかすることが一番悲しいの。世界で二人だけの姉妹なんだから仲良くしなさい。」と言います。だから、将来は誰にでも親切にできる優しい大人になりたいです。

ぼくの生まれた日は、雪が降っていた。それから10年がたった。今は4年生になった。

4年生になってできることがたくさん増えた。身の回りのことが自分でできるようになったし、学校の勉強でもいろんなことができるようになった。昆虫にきょう味を持ち、たくさんの昆虫の名前をおぼえた。小さいころは体が弱くて、病気にかかりやすかったけど、今はずいぶん体が強くなった。

でも、一番自分の自まんでできることは、やっぱり心が強くなったことだ。少々いやなことを言われても気にしなくなったし、泣かなくなった。これは、ぼくをささえてくれた人がいたからだ。そのとき、ぼくをはげましてくれたり、勇気づけてくれたり、やさしくしてくれたり、かばってくれたり、どこかに連れて行ってくれた。思い返してみれば、みんながいてくれたから、ぼくはこうして4年生になれた。

そして、大事な友達もできたし、しょう来の夢も持てた。ぼくのしょう来の夢は、おす司屋だ。理由はおす司が好きで、おじいちゃんもおす司屋をしていたからだ。おじいちゃんの作るおす司はおいしくて、何回かにぎり方を教えてくれた。ぼくは、人に喜んでもらえるおす司屋になりたい。そのためには、きびしいしゅ業にたえられるように、もっと心も体も強くなりたいといけない。

これからは、色々なことにちょうせんして、しょう来の夢をかなえられるようにがんばっていきたい。おす司屋になったら、お世話になった人たちを一番初めにしょうたいして、立っばになったすがたを見てもらいたい。そして、たくさんの人にぼくの作ったおす司を食べてもらえたらとてもうれしいです。

おばあちゃんは大変きつい仕事だからやめたほうがいいと言うけれど、ぼくのおす司屋になりたいという気持ちは変わらない。夢はかなえるためにあると思う。その夢を实げんするために勉強し、少しずつ進んでいきたい。

ぼくにはふた子の弟がいます。弟とは時々けんかをするけど、見ているテレビや好きな食べ物がほとんどいっしょで、とても仲よしです。テレビのチャンネルでけんかをするのはあまりありませんが、好きな食べ物の取り合いはたまにしまいます。

お母さんが初めてふた子と知らされたのは、2回目に病院に行った時でした。お母さんは、とてもおどろいたそうです。お母さんは、ぼくたちがおなかの中にいた時や、小さかったころの話をよくしてくれます。おじいちゃんやおばあちゃん、いとこのみんなからも、とてもかわいがってもらったり、いっぱいお世話になったそうです。

ぼくは、1年生になる前に、お父さんの仕事のつごうで伊丹に来ました。入学する時、保育所のころからの友だちが一人もいなかったのも、とても不安でした。でも、すぐに新しい友だちができて、毎日楽しく学校に行くことができました。友だちっていいなと、心から思いました。

ぼくはしょう来、陸上選手になりたいと思っています。それは、前に家族みんなで見に行った世界陸上で、朝原選手が走っている姿がすごくカッコよかったからです。2008年の北京オリンピックでも、テレビで見た朝原選手はすごいと思いました。最後のリレーでの4人の活やくを見て、ぼくもあんなチームで走ってみたいと思いました。

これから先、いろんな人と出会って、仲間を増やしていきたいです。ぼくは今、習い事で陸上の練習をしています。しょう来のゆめを実現させるために、一生けん命がんばっています。もしもぼくのゆめがかなったら、弟やお父さんやお母さんはもちろん、これまでにお世話になったたくさんの人たちが喜んでくれると思います。そのためにも今、いろんなことを一生けんめいがんばっていきます。

私は本が好きです。小説も好きですが、絵本も好きです。絵本の好きな所は小説には無い、絵がある所です。

私が本を好きになったわけは、お母さんが私の小さい時に絵本を読んでくれたからです。それから私は、本を好きになりました。

本を好きになってからは、自分でも絵本を書いてみたいなと思い、書いてみたのが私のしょうらいの夢につながりました。

私の書いた絵本の1冊目は、『サンタさんからのおくり物』です。色をぬったり、字をきれいに書いたりすることをごんばりました。図書館の先生に見てもらって、文章を直してもらったり、カバーを付けてもらったりして、すごくいい絵本になりました。

2冊目は『ロッシとリリのハロウィン』という題の絵本です。図書館の先生に、「きれいにできたら、図書室にかざるね。」と、言ってもらったので、前の本よりも絵をきれいに書いたりするのをごんばりました。ごんばって作りましたが、残念ながら、図書室に置いてもらえませんでした。でも、またごんばろうと思いました。

3冊目は、『チョコとバナナ』です。タイトルはチョコバナナからつけました。町や林の中にある店や家をめぐって、最後には森のコンサート会場に行き、きれいな音楽を聞くというお話です。今までで一番ごんばった本です。

この3冊の本を書いているうちに、絵本作家になりなりたいなと思い始めました。これが私のしょうらいの夢です。

絵本を読んでもらって、楽しい気持ちになってもらいたいなと思います。みんなに絵本を通して、幸せをとどける「幸せたっ急便」になろうと思います。絵本を書くのは楽しいので、これからもごんばりたいと思います。

ぼくは、今代表委員をしています。代表委員として行っている仕事は、あいさつ運動や鈴原ミニオリンピックの用意です。赤い羽根の募金や、プルトップ・ベルマーク集めもしています。児童会で決まったことを、自分のクラスだけでなく兄弟学級の2年2組にも知らせに行っています。

クラスでは、いつもみんなに呼びかけて、放課後、公園に集まり外遊びをしています。男子も女子もいっしょになって遊んでいます。遊びの仲間が、となりのクラスや他の学年にも広がってきているのでうれしく思っています。どんどんたくさんの友だちが集まってほしいです。ぼくは、鈴原小学校のみんなが友だちに思いやりをもてるようになってほしいと願っています。代表委員になったのはそんな学校にしていきたいからです。

ぼくの将来の夢は、プロのテニスプレーヤーになることか、考古学者になることです。テニスプレーヤーになりたいと思ったのは、「テニスの王子さま」と言うマンガを読んだからです。とっても興味がわいてきました。クリスマスにラケット2本とボールをプレゼントしてもらいました。それから毎日お兄ちゃんと練習や試合をしています。

考古学者になりたいと思ったのは、考古学を研究している人が活やくする映画を見てからです。たくさんの人と協力してむかしのたてものをほり起こしたり、むかしの文明を見つけたり、わくわくすると思います。

テニスプレーヤーになるために、まずは中学校でテニス部に入り、毎日の練習をしっかりとがんばります。教えてもらったことをできるまで練習するつもりです。そして、考古学者になるために、勉強をがんばり大学で考古学を学びたいと思います。

むずかしい夢だと思うけど、一つずつがんばっていきます。

ぼくは、1年生の夏休みの8月8日に、家の3階のふきぬけから2階をのぞきこんでいたら、落ちてしまいました。気がついたら救急車の中でした。後で聞いてみると、落ちた時のショックで気を失っていたらしいです。

救急隊員の人がいろいろな病院に電話して、やっと伊丹病院が受け入れてくれたそうです。けんさをしてから、その日は先生の数が少なかったので、宝塚第一病院にかわることになりました。

第一病院で「骨折しています。」と言われた時は、すごくショックでした。けれど、お母さんはずっとそばにつきそってくれて、お父さんは会社が終わったらすぐに来てくれていたし、おばあちゃんたちはお寺におまいりに行ってくれました。初めはすごく長い間入院しなければいけないと思いましたが、一週間でたい院できたのは、こんな家族のおかげだと思います。

ぼくは、お母さんやお父さんたちに、働いてためたお金で家を買ってあげようと思います。お父さんやお母さんたちには、ずっと育ててもらっているからです。

ぼくは、小さいころから乗り物にはきょうみがありました。だから、将来は自動車も運転したいです。夢は、バスの運転手です。たくさんの人をバスに乗せて、いろいろな所にいけるのは楽しいと思います。

今、テレビや新聞では、「飲酒運転でつかまった。」などのニュースがたくさんありますが、ぼくは、危ない運転はぜったいにしたくないです。バスの運転手は、多くの人を乗せたりしてせきにんが大きいけれど、やりがいのある仕事だと思います。交通ルールを守って、時間も正確で、いつも笑顔であいさつをしたいです。そうすれば、お客さんも明るい気持ちになれると思います。

これから、この夢に向けて少しずつ努力していきたいと思います。

わたしの将来の夢

わたしの将来のゆめは、パティシエになることです。

なぜ、パティシエになりたいかというと、おかしを作ることが大好きだからです。特に、ケーキやチョコレートを作ることが好きです。

3年生くらいに、はじめてケーキを作ったときにはあますぎたけれど、だれかのたん生日に作ったクリームケーキをお父さんが、

「おいしい」

と言っていっぱい食べてくれました。そのときは、初めて自分で作ったものを「おいしい」と言ってくれたので幸せいっぱいになりました。

わたしは、「人におかしを作ってあげるって幸せだな。この幸せが、食べる人にも伝わればいいのに。」と思いました。

だから、わたしは、「好きでパティシエになるんじゃなくて、人を幸せにするためにパティシエになろう。そして、泣いている人も食べると元気になるおかしを作ろう!」と思いました。

そこから、しょう来のゆめがパティシエになりました。

私のしょう来のゆめは、「おいしいおかしを作る」パティシエではなく、「人を幸せにするおかしを作るパティシエ」です。

本当にしょう来、パティシエになって家族や先生にもおかしを作ってあげます。かなしいことがあったり、つかれたりしたらわたしのおかしを食べに来てください。

もし、パティシエになれなくても、「人を幸せにしたい。」という気持ちはかわりません。

小さいころのことをお母さんに聞いてみました。

わたしは2才のころ高熱を出し、何も食べられないことがありました。心配した両親が、いろんな病院をまわったそうです。そして、病院でてんてきをうった時、小さな手にささっているはりを見て、お母さんは泣いていたそうです。

私がよく相談する相手はお母さんです。つらいことがあった時、一番に話すとかい決方法をいろいろ教えてください。この前、お母さんにいやなできごとを話すと、

「そんなつらいことがあったんやな。」となみだをうかべながら話を聞いてくれました。

このようなできごとから、私は、お母さんに心配かけちゃいけないなと思いました。私はお母さんの泣き顔を見たくないからです。まだまだお母さんに相談することもあります。最近はお友達に相談することも多くなりました。

私がようち園にかよっている時、いやなことを言われて泣きそうになっていた時に守ってくれた友達がいました。私は、やさしい友達がそばにいてくれるだけすごうれしかったことをおぼえています。私もそんなふうに使われる人になりたいです。

私の両親は仕事をしています。いつも帰りがおそいのでお母さんが帰ってくるまで私はおじいちゃん、おばあちゃんの家でまします。そこで夕はんを食べます。おばあちゃんは、私の好きなおかずを作ってくれます。かぜをひいてしんどくても、いつも作ってくれます。

私は10年間をふり返って、いろんな人にささえられてきたんだと、あらためて思いました。いつかお礼をしたいなと思います。

私はしょう来、お父さんやお母さんのような人になりたいです。なぜなら私のお父さんお母さんは家族のために、一生けん命働いているからです。そして、今までささえてくれた人のように、心の強い人間になりたいです。そのためには、いつも人にやさしく、こまっている人がいたら自分にできることで手助けしようと思います。これからも、今、決意していることをわすれず、がんばっていこうと思います。